

中学校 第2学年 美術科学習指導案

(内容) 題材名「日本らしさのデザイン～海外の人に喜ばれるお土産をデザインしよう～」 6 / 6 (鑑賞)

(目標) 生徒相互の完成作品を鑑賞する活動で、学びをまとめたポートフォリオを併せた鑑賞を通して、相手を引き付ける表現の工夫や美術の働きや文化について理解を深めることができる。

過程	学習活動	指導上の留意点	機器類の活用場面
導入 5分	1. 相手を引きつける表現について、工夫の視点を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> 参考作品を示し、主題と表現の工夫を紹介しながら、これまで着目してきた制作の視点を整理することで、鑑賞を行う上での視点を明確に意識できるようにする。 	電子黒板 [容易な提示]
	2. 本時のめあてを把握する。	<ul style="list-style-type: none"> 級友の作品にはどのような「表現の工夫」があるのか興味をもたせ、めあてを引き出す。 	
めあて 相手を引き付けるために、どんなデザインの工夫をしているか注目しよう			
展開 1 20分	3. 自分の作品について学びをまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> Chromebook のカメラで蓄積してきた記録を基に、Google Jamboard を活用して、教師が示すワークシート①に自分の作品と制作の意図、工夫をまとめられるようにする。 ワークシート①には、主題や表現の工夫、意図を説明できるよう、項目立てをしておく。 	Google ドライブ Google Jamboard [個に応じた学び]
	4. 相互の作品を鑑賞する。	<ul style="list-style-type: none"> 共有ドライブと Google Jamboard を活用して、主題を基にした表現の工夫を伝えやすくし、実物と併せて班で鑑賞できるようにする。 Google Jamboard に貼り付けたワークシート②に、班員から鑑賞の視点を基に評価を受けることで、各生徒のフィードバックにつなげる。 共有ドライブを活用し、班以外の生徒作品を鑑賞する時間を設ける。 	Google ドライブ Google Jamboard [対話的な学びの促進]
終末 5分	5. 学びを振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> 題材全体を通しての学びを振り返り、価値付けをして、次の題材への意欲を高める。 教師は、全員の共有のフォルダを管理する。 	
まとめ 対象とする相手の思いや立場を考えた様々な工夫の視点がある			